

「ガバナンス」は、今日、さまざまな分野で用いられるようになった概念の一つです。コーポレート・ガバナンスを初め、政府や民間の組織のあり方を議論する際に不可欠な言葉となっています。国内に限らず、国際的な局面においても多用されています。しかし、従来の「ガバナンス論」は、特定の分野・局面ごとにその関心が限定されており、分野を横断する連関に十分に自覚的であったとはいえません。今回のシンポジウムでは、アジア、ヨーロッパ、アメリカから研究者を招き、現代の日本社会が求めるガバナンスを総合的に展望し、それを実現するためのガバナンス論の構築に向けて議論を深めたいと思います。

東京大学社会科学研究所主催・国際シンポジウム「現代日本のガバナンス」

日時：2010年12月1日（水）9:30～17:30

場所：東京大学農学部弥生講堂・一条ホール

使用言語：英語（同時通訳付）

<プログラム>

9:30 開会挨拶と趣旨説明 末廣 昭（社研所長）・平島 健司（社研）

10:00～11:30 第1セッション：福祉ガバナンス

報告：Margarita Estevez-Abe（シラキューズ大学）

“The Future of Japanese Welfare State”

報告：Hiroko Takeda（シェフィールド大学）

“Towards a New Food Governance?: Food Policy Reform in Contemporary Japan”

討論：佐藤 岩夫（社研）

司会：大澤 真理（社研）

13:00～14:00 第2セッション：コーポレート・ガバナンス

報告：田中 亘（社研）

“Corporate Ownership and Governance”

討論：Yupana Wiwattanakantang（シンガポール国立大学）

司会：中林 真幸（社研）

14:15～16:15 第3セッション：アジア、ヨーロッパ、グローバルの文脈におけるガバナンス

報告：Roland Czada（オスナブリュック大学）

“Migrations and European Traditions of Governance”

報告：Kasian Tejapira（タマサート大学）

“Governance in Thailand”

報告：Colin Picker（ニュー・サウス・ウェルズ大学）

“The Interaction of WTO Governance and Legal Culture”

討論：中川 淳司（社研）

司会：五百旗頭 薫（社研）

16:30 ~ 17:30 パネル・ディスカッション：ガバナンス・アプローチと現代日本、閉
会の辞

討論：大澤真理、Margarita Estevez-Abe, Kasian Tejapira ,Roland Czada

司会：平島 健司、中村 尚史（社研）

問い合わせ先：Shakensympo2010@iss.u-tokyo.ac.jp